

HDL-コレステロール・Non HDL-コレステロール (脂質／血液検査)

HDL-コレステロール<HDL-C>

| | |
|-----------------|--|
| 意義 | 善玉コレステロールと呼ばれ、減少すると動脈硬化を促進するとされる |
| 基準範囲* | 男性：40～86mg/dL 女性：45～96mg/dL |
| 異常値で疑う疾患 | <高値> コレステロールエステル転送蛋白欠損症、原発性胆汁性肝硬変など <低値> 動脈硬化症、肝疾患、糖尿病、甲状腺機能亢進症など |
| 服薬指導に活かせるポイントなど | □ エストロゲンやインスリン、ステロイド、サイアザイド系利尿薬、β遮断薬などの薬物により低値を示す可能性があるため、異常値やHDL-Cのコントロールが悪い場合は、このような薬剤の使用に注意する |

【参考】最近注目の動脈硬化の指標『non HDL-C (HDL-C以外のコレステロール)』**

LDL-C、non HDL-C、TGが高いほど、HDL-Cが低いほど冠動脈疾患の発症率が高いことが確認されています。non HDL-Cは食後採血でも変動しないことが知られており、「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版（日本動脈硬化学会編）」においては、食後採血やTGが400mg/dL以上の場合、この値を用いて脂質異常症の診断を行うことが推奨されています。

「総コレステロール-HDL-C」で算出し、同ガイドラインでは「LDL-C管理目標値+30mg/dL未満」を管理目標値としています。